

## 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等

（全国学力・学習状況調査結果）

【成果と課題】

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

#### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

### 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

### 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	48	47	38	8.3	24.0
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	46	55.4	41.7	36.6	43.8	42.1	7.4	7.2	26.3	11.5	13.2
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
2年	学校	59	65.4	46.3	43.1	47.7	45.4	8.6	6.9	10.0	6.2	8.2
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1年	学校	61	50.9	41.6	39.1	50.9	53.6	9.6	7.2	10.9	4.3	5.9
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
3年	学校	42	83.8	83.0	84.2	67.4
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			(kg)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	30.96	32.90	46.96	55.30	90.25	△	8.04	217.90	21.50	48.19
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	422.62	8.08	194.64	19.84	41.10
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	410.69	7.99	197.18	20.57	41.86
2年 女子	学校	23.44	24.52	43.36	36.40	46.76	△	9.58	186.58	11.50	46.25
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	337.57	9.01	167.01	12.04	47.51
	全国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	309.02	8.96	166.32	12.40	47.37

## 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### ○全国学力・学習状況調査結果

##### 【成果と課題】

○**国語** > 昨年度の全国平均正答率と比べ、今回は10ポイント近く低くなっている中、本校の問題別正答率を見ると、対全国差が令和5年度と比べ、縮まっている問題が増えている。また、平均無回答率も減少している。しかし、平均正答率で大阪府、全国を超えた問題はない。

○**数学** > 全国と比較して、正答率が14.5ポイント低かった。「関数」の領域においては、正答率が前年度と比較して上回り、改善がみられた。課題としては、全国と比較して、平均無解答率が12.7ポイント低かった。わからないときにすぐに諦めたりすることや、文章理解が苦手な点が課題としてあげられる。「教と式」の領域、は昨年度と比較しても正答率が下がっており、基本的な計算力が身についていないと考えられる。また、「図形」の領域においては、全国と比較して17.4ポイント低く、早急に改善が必要であると考えられる。

##### 【今後に向けて】

○**国語** > 「読解力」が本校の課題と考える。「読むこと」の平均正答率が36.1%と最も低い。問題文や本文の理解が低いまでは正答を書くのが難しいと考える。本文を正しく読み取るために、「要約」「話し合い」「発表」などの活動を増やすことが必要。また、その活動の中でなぜその意見が違うのか、その意見にした根拠などを明確にする力、建設的に話し合える力を身に付ける必要もある。

○**数学** > 教え合い・学び合い活動を通して、基礎的な学力を全体的に向上させる必要がある。また、考えを表現する活動を多く設定し、記述式などで自分の考えを答えられるように力を育てていく。

#### ○中学生チャレンジテスト(3年生)

##### 【成果と課題】

○**国語** > 言葉に関する知識において平均正答率が高い。ただし、大阪府平均点と比べ10ポイント下回る結果となっている。の中でも課題となるのは、文章の読解力である。文章から筆者の意図や考えを正確に読み取るという点において、平均正答率は半数を下回る結果が出ている。

○**社会** > 大阪府との平均正答率を比較すると8.7ポイント低いことが分かった。無解答率も大阪府が5.0ポイントに対して、7.2ポイントであった。分野別にみると、地理よりも歴史が平均正答率、無解答率が低かった。課題としては、テスト問題の後半になると、選択式の問題の無解答率がより高くなってしまっており、記述式に関しては1問ではあったが、40.9%が無解答であった。問題を解くことをすぐに諦めてしまったり、問題文が長いものや資料から読み取る問題に対して、最後まで粘り強く問題を解くことが求められる。

○**数学** > 大阪府の平均正答率と比較して、12.5点下回っており無回答率は11.5ポイント下回った。特に「教と式」の領域では平均正答率が17.1ポイント下回っており、基礎的な計算力や、式を使って説明・考察する力が課題であると考える。

○**理科** > 全ての問題において大阪府の無解答率と比べて、本校の無解答率が高く、問題文を最後まで読むことができずに、途中であきらめたり、わからなくとも考えて答えたりすることができないと考えられる。

○**英語** > リスニング問題、正しい文法を選択する問題における無解答率は0%であった。しかし、どちらも大阪府の平均正答率と大きく乖離しているものとして、学習指導要領の領域「聞くこと」「読むこと」、評価の観点「思考・判断・表現」、問題形式「記述式」に課題がある。

##### 【今後に向けて】

○**国語** > 今回の結果で最も低い平均正答率が「話すこと・聞くこと」の20.9%、また大阪府との比較で最も差が表れた問い合わせが「書くこと」の27.9%だった。問い合わせの共通点として「内容に合わせ表現を直して書く」ことが求められている。そのため今後は学習した内容に関して「要約」「意見の発表」の活動を増やす必要がある。また文章から根拠を持って説明できる力を身に着けられるよう指導する必要もある。

○**社会** > 物事を考えて、自分で表現する力をつけることが必要だと考えられる。分野を問わず、復習の時間を設け、基礎的な学力を向上させることが必要である。協同学習も取り入れ、自ら考えたことをまとめた活動の充実を図り、力を身に付けてください。

○**数学** > 「知識の定着」や「基礎的な計算力」が本校の課題であると考える。反復練習や対話的な活動で理解を深めていき、土台をしっかりと固める必要がある。また、ICTなどを活用して生徒の主体性を育み、粘り強く課題に取り組む力を身につけさせる必要もある。

○**理科** > 長い文章で書かれた問題に取り組む活動を増やす。そして、文章やグラフ、実験結果などから必要な情報を読み取る練習をする必要がある。さらに、考えたことや学んだこと、理解したことを文章でまとめる機会を増やすことで、表現力を育てていく。

○**英語** > リスニング練習を継続して、「聞くこと」の能力向上を図る。音と文字の結びつきを理解させ、「聞くこと」から「読むこと」への理解が増進するよう、フォニックスを授業で継続して指導していく。

#### ○中学生チャレンジテスト(2年生)

##### 【成果と課題】

○**国語** > 平均点が府平均と比べ99.8%となった。R5年度(1年生時)は対大阪府比86.0%だったため、大きく上昇した。

○**社会** > 大阪府の平均点より3.3ポイント低い結果だった。地理・歴史分野においての偏りはなかった。記述式の問題においては、大阪府の正答率を上回ることができた。観点別では、思考・判断・表現においても、差はなかった。課題としては、短答式の正答率が極端に低く、観点別においても、知識・技能のポイントが低かった。また記述式においては、正答率を上回ることができたが、無解答率は府よりも高かった。

○**数学** > 平均正答率は大阪府と比較して、-7.6ポイントであった。課題としては、大阪府と比較して、関数の領域が特に差が大きかった。また、思考・判断・表現の観点の問題が低い正答率になっている。

○**理科** > 大阪府と比較して無回答率が低く、難しい問題もあきらめずに取り組んだと思われる。また、昨年度のチャレンジテストplusでは、思考・判断・表現の区分に課題があったが、今回大阪府平均を超える正答率で、基礎の知識を活用して考える力がついていている。授業ごとに課題を出し、まとめには問題を解く時間をつくることで、基礎の定着につながっている。

○**英語** > 1年生時よりわずかに縮まったものの、府平均と比べ-8.6点と依然として差は大きい。領域別では「聞くこと」、「読むこと」に関する選択式の問題は比較的の正答率は高いが、「書くこと」が特に弱い。語句や文を完成させる記述式の問題で正答率が低く、無回答率が高くなっている。

##### 【今後に向けて】

○**国語** > 古典分野の歴史的仮名遣いの問い合わせの正答率が低い。今後は古典分野の理解度を高めるように努める。

○**社会** > 基礎学力の定着を図るために、復習ができるような授業を展開していく必要があると考えられる。また、短答式・記述式の問題にも対応できるように、自分の考えをまとめ、発表するなどの時間の確保もしていく。

○**数学** > 教と式の領域は比較的の正答率が高いことから、計算問題の帯活動で定着を図り、応用問題などにも挑戦していく。関数の領域はICTを効果的に使い、身の回りのことと結びつけながら学びを深めていきたい。

○**理科** > 引き続き授業規律の確保と、課題提出を行う。また、条件から考えて応用して答える問題に課題があり、今後は、こうした問題の練習も取り入れた授業を行う。

○**英語** > 府平均に対する得点の割合が7割未満の生徒が52.6%と半数を超えており、英語の学力が十分に定着していない生徒が多い。既習の文法事項の反復練習に加え、単語や連語についても正確につづりを覚えるよう対策が必要である。基礎学力の更なる強化を目指して指導していきたい。

#### ○中学生チャレンジテスト(1年生) \*社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

##### 【成果と課題】

○**国語** > 平均点が府平均と比べ7.6ポイント下回っていた。対大阪府比は87.0%であった。

○**社会** > 大阪市と平均点より、8ポイント低かった。国・数・英に力を入れていたことや、対策を十分に行えていなかったことが、原因だと考えられる。特に歴史の分野が平均点より低かったことから、苦手であることが考えられる。

○**数学** > 平均正答率は大阪府と比較して、-10.7ポイントであった。課題としては、知識・技能分野や、とりわけ計算問題において、正確に解ききれない生徒が多いようと思われる。また、そういう問題の無回答率も大阪府と比べて高い位置に推移している。

○**理科** > 平均正答率は大阪市と比較して、自校50.9点、大阪市55.6点で、-4.7ポイントであった。課題として、記述の得点が低いことがあげられる。(自校11.5点、大阪市22.6点)

○**英語** > 平均点は大阪府と比較して-7.9点という結果となった。そして、得点分布グラフを見ると本校は高得点層が少なく、35~50点の層が多いという結果であった。また分野別では書く力、記述式問題の得点率が低かった。その結果から、本校の課題は基礎学力(主に書く力)の向上が重要事項と考える。

##### 【今後に向けて】

○**国語** > 漢字への取り組みを中心に、書くことと国語の答え方に習熟することで、無回答率を下げ中央値の上昇を図りたい。

○**社会** > 単元テストや小テストを行なうながら、学習の定着を行っていく。また次回のチャレンジテストの範囲も考えながら、余裕を持って、対策にも時間かけたい。

○**数学** > 基礎・基本的な計算問題を「正確に」解ききる力をつけさせる必要がある。次年度は授業の最初に、計算問題や基本的な問題を扱う帯活動を取り入れ、丁寧な解説を行なううえで、基礎・基本の定着を図っていきたい。

○**理科** > 授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、繰り返し学習を行う。

○**英語** > 英語科において、今後に向けて「日本語から英語にする力」をより重点的に行っていきたい。授業内で小テストの実施回数を増やし、内容は単語から始めて、イディオム、文章へとステップアップしていくながら、生徒たちの英語力を向上していきたい。

#### ○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果と課題】 CEFR-Jにおける英語レベルとして、「リーディング」がほかの技能よりも高い結果が得られた。課題としては、「スピーキング」が「自分に関する話題について、なじみのある表現を使って、質問したり、答えたりするレベルだ」ということが分かった。成果につながった要因としては、しゃれマガのような簡単に読めるまとまりのある文を読む練習をしたことである。課題となつている要因としては、スピーキングに関しては、英検の対策練習のみを行なったことである。

【今後に向けて】 自分以外のことについて、完全な文でなくても答えられるよう、簡単な表現や定型表現を練習していく。また、質問に即座に答えられるようにスピードにも意識して指導していく。

#### ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

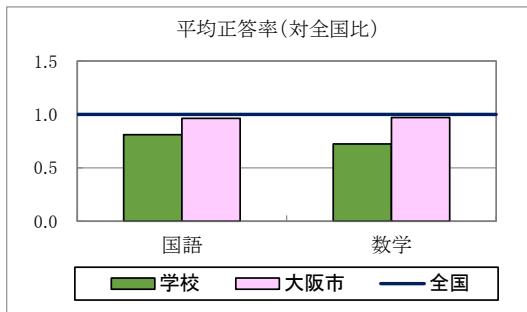
【成果と今後取り組むべき課題】 男女とも積極的に活動する生徒が多い。保健体育の授業以外でも運動を積極的に取り入れる生活について、生徒に知識・教養を深めていく取り組みが必要である。また、運動やスポーツへの苦手意識を軽減できるような授業づくりの工夫や、昼休みの時間を活用するなどの新たな取り組みについて考えていこうと思う。

# 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

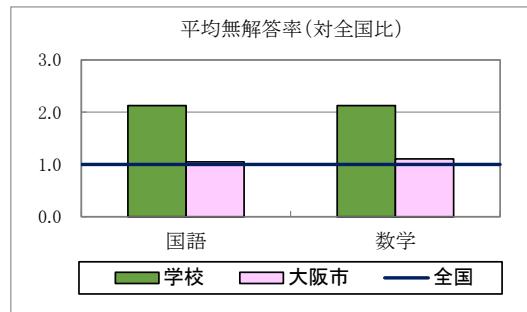
## 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

### ○全国学力・学習状況調査 【成績と課題】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	47	38
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5



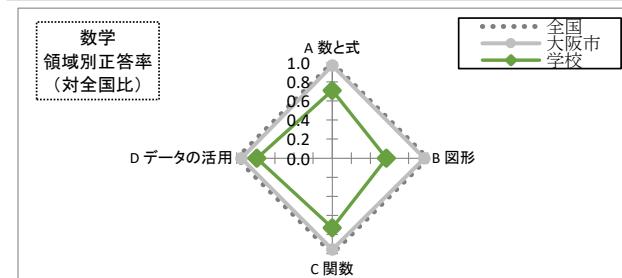
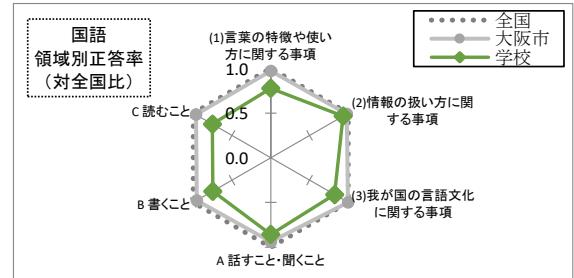
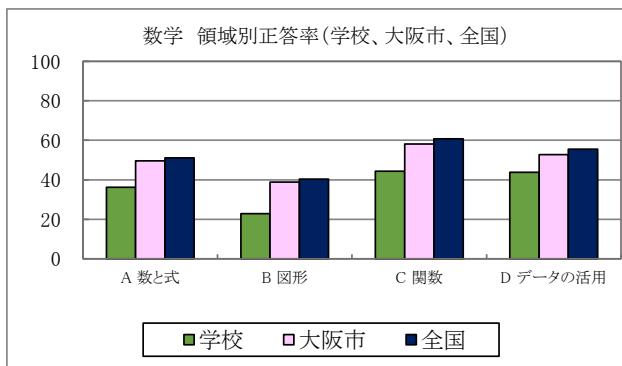
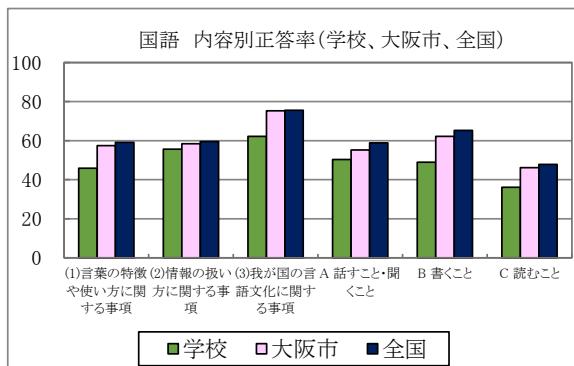
平均無解答率(%)	
国語	数学
8.3	24.0
4.1	12.5
3.9	11.3



### 【国語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	45.9	57.5	59.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	55.6	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	62.2	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	50.4	55.2	58.8
B 書くこと	2	48.9	62.2	65.3
C 読むこと	4	36.1	46.2	47.9

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	36.3	49.6	51.1
B 図形	3	22.9	38.9	40.3
C 関数	4	44.3	58.1	60.7
D データの活用	4	43.8	52.8	55.5



# 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

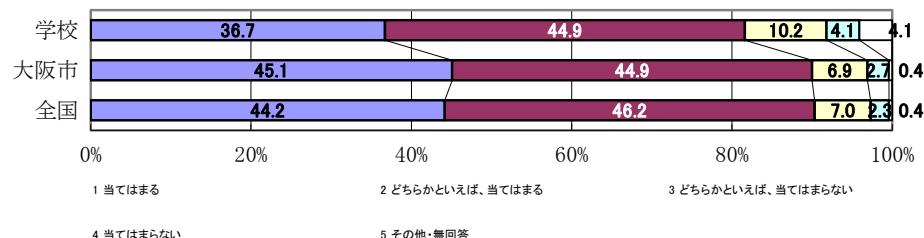
## 生徒質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号  
質問事項

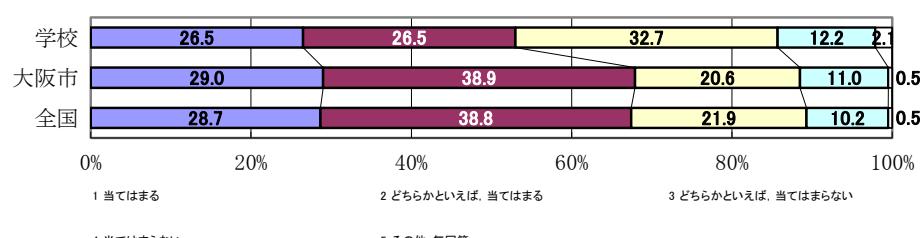
10

先生は、あなたのよいところを認め  
てくれていると思いますか



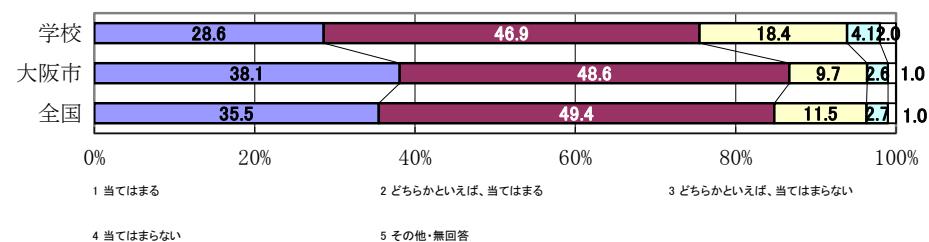
14

困りごとや不安がある時に、先  
生や学校にいる大人にいつで  
も相談できますか



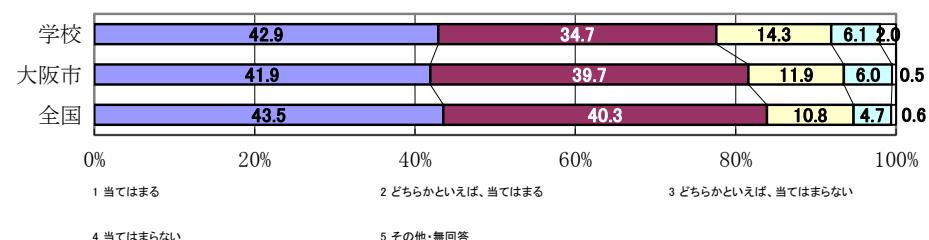
36

先生は、授業やテストで間違えたと  
ころや、理解していないところにつ  
いて、分かるまで教えてくれている  
と思いますか



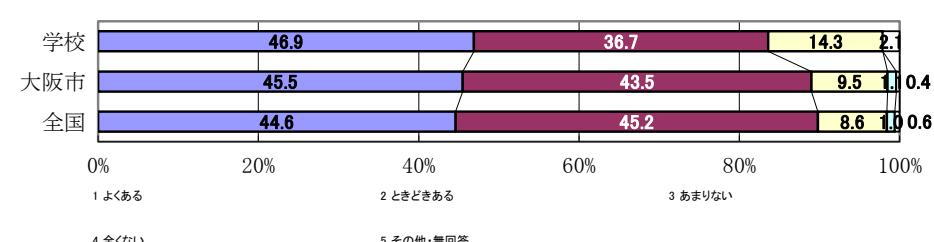
16

学校に行くのは楽しいと思います  
か



19

普段の生活中で、幸せな気  
持ちになることはどれくらいあり  
ますか



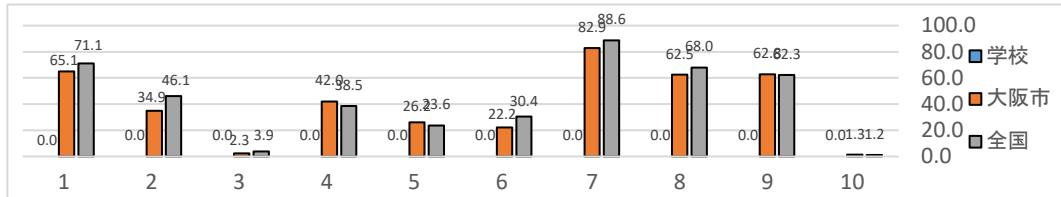
# 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 生徒質問より (26)

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



1. 学校の部活動に参加している

2. 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学習協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)

4. 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている

6. スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている

7. 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8. 家族と過ごしている

9. 友達と遊んでいる

10. 1~9に当てはまるものがない

## 令和6年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 学校質問より

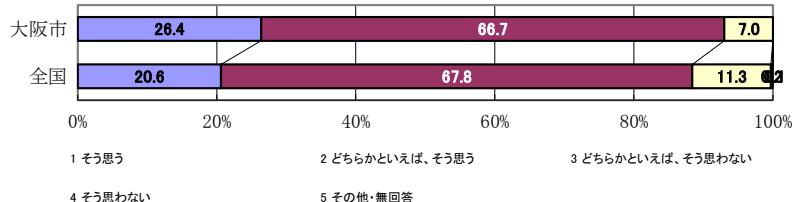
□ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

○全国学力・学習状況  
検結果  
質問事項

25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか、

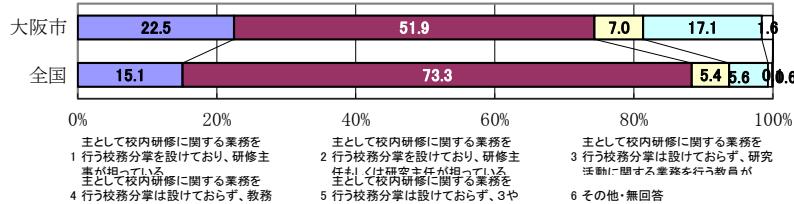
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



19

校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)

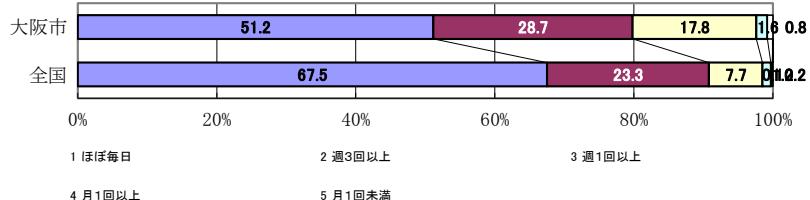
学校 「主として校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けておらず、教務主任や主幹教



60

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか、

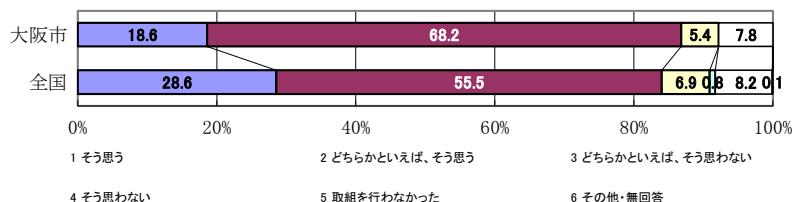
学校 「週1回以上」を選択



74

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深りましたか、

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



68

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか、

学校 「持ち帰らせていない」を選択

